

第十八編

種彦

園貞

付

権

田舎

権



種彦 繁 如也



十八編上

鶴屋板

とりのみ

天保丙申

柳亭種彦作

第十八編上冊

# 倭紫田舎源氏

仙鶴堂壽粹

歌川國貞画

孟春發行

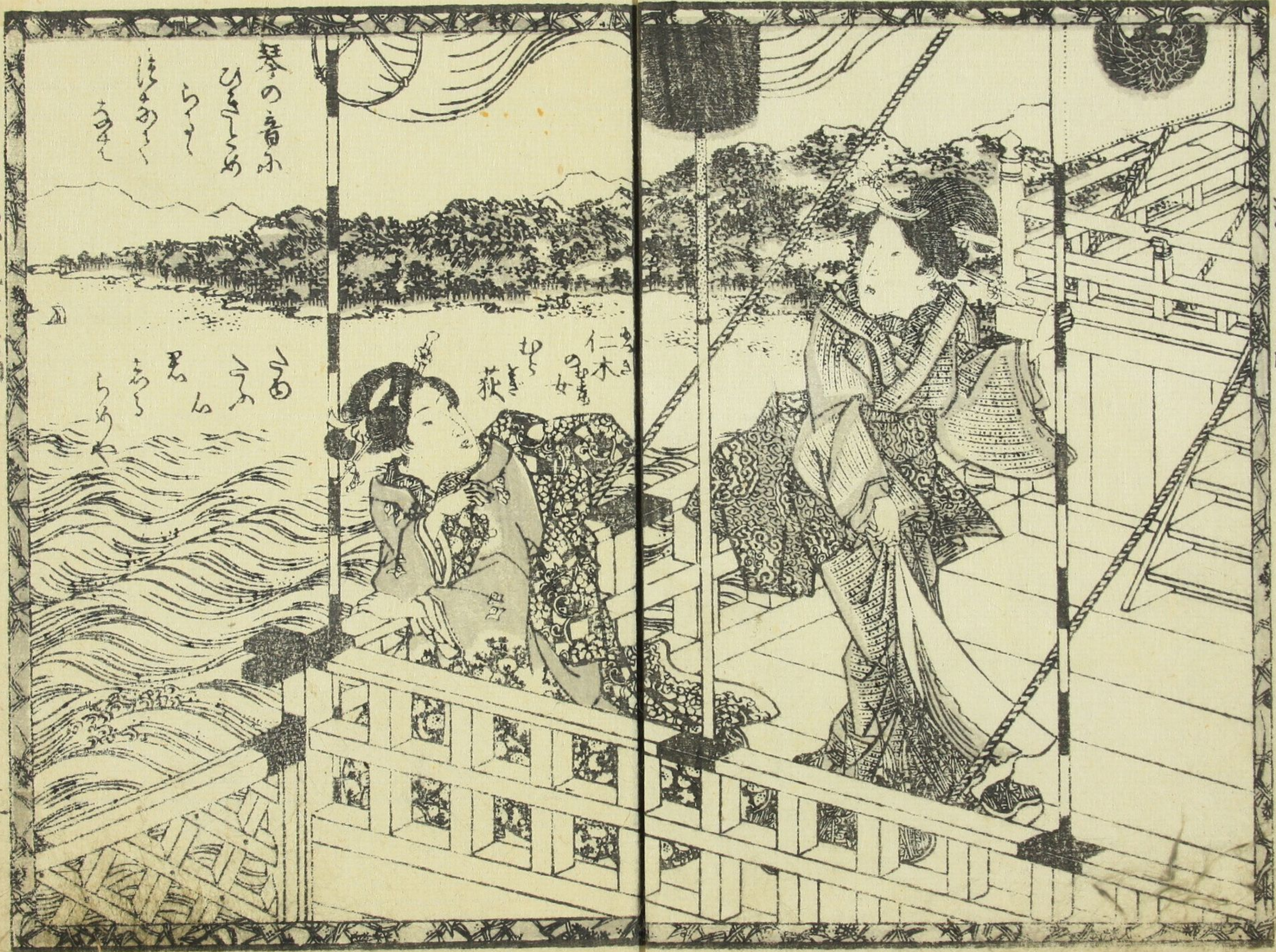
倭紫田舎源氏第十八編叙

猿猴の日の長物語おとよぬ湖あつ月のと取んと山  
 王の橋本ふ彫刻夏十八編賣出まの申の春孫ま  
 玄孫ふおろるる宇治十帖のまゑまをの従才端身  
 系圖の混乱書より維く思へをも云開堂の佛より  
 御見履の光りよのまゑ二万二千三百丁續々たりて  
 初年より今まゑと和抄八年是も猿の縁のひの  
 當ふといふ草紙の吉瑞扱んで扱へ蟹の甲這こころ  
 程といふ瀆磨より明石の巻よりのり

天保丙申孟春

柳亭種彦記





琴の音ふ  
しらべく  
あま

あま  
あま  
あま  
あま

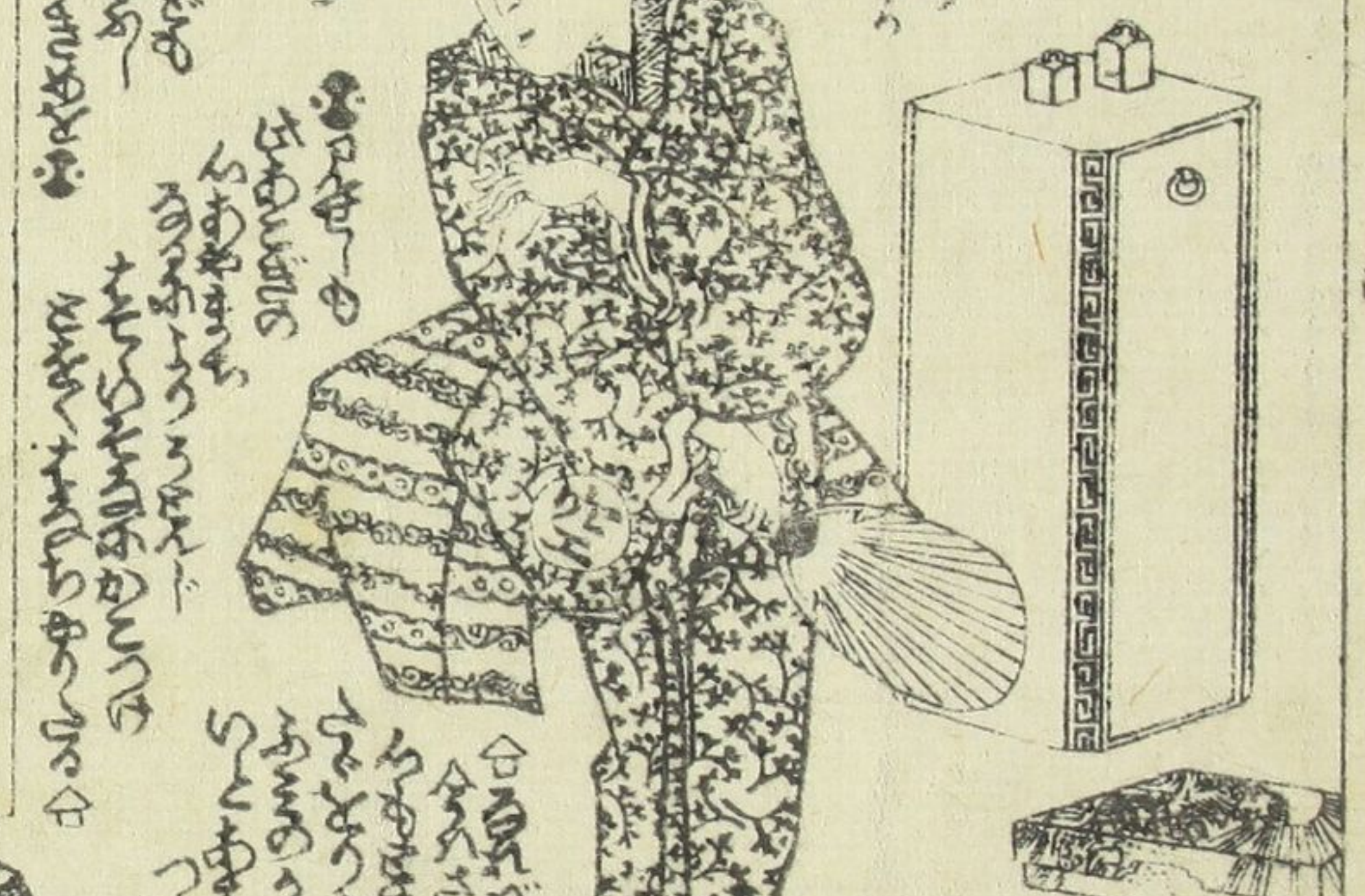
仁木  
の  
女  
あま  
あま

源  
氏  
の  
舟

三



Calligraphic text in the upper right corner of the right page, likely a title or introductory text.



Calligraphic text in the lower right corner of the right page, possibly a poem or commentary.



Calligraphic text at the bottom of the left page, likely a poem or commentary related to the scene above.

勢州度會の  
若くは君吉と  
使として  
須ノの浦へ

古河  
水邊  
を  
と  
る







Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or transcription of the scene depicted in the illustration.

Handwritten text in vertical columns, continuing the commentary or transcription.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or transcription of the scene depicted in the illustration.

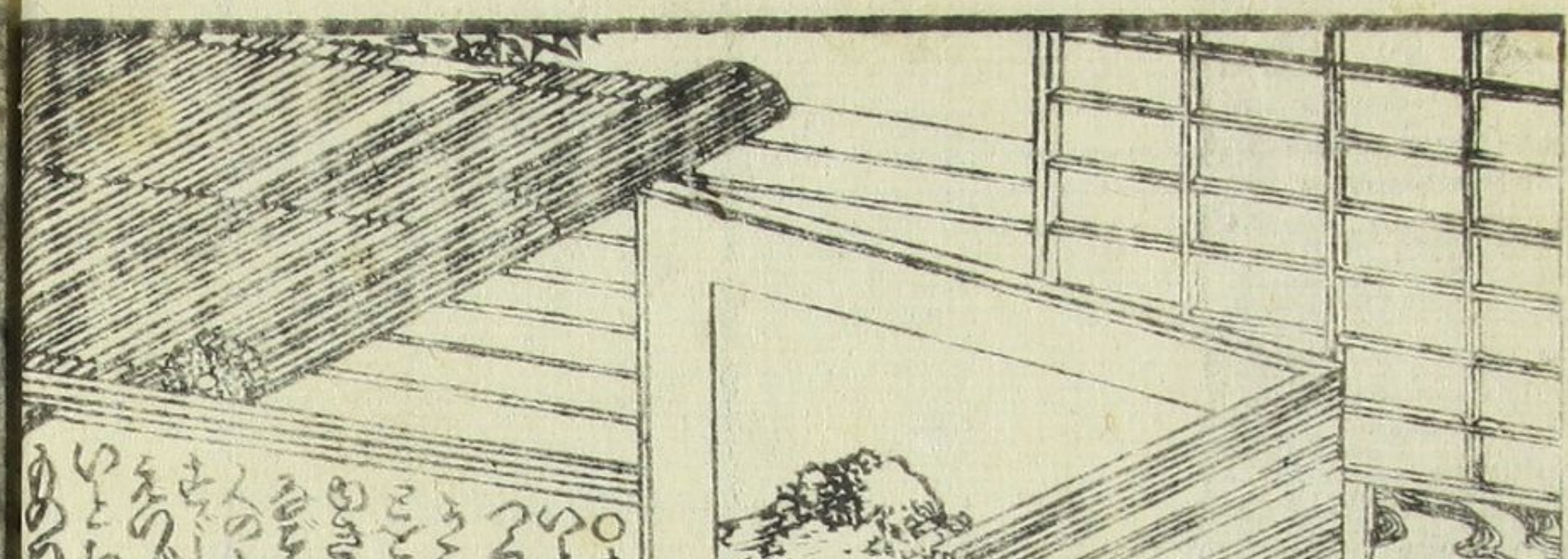
Handwritten text in vertical columns, continuing the commentary or transcription.



Handwritten text in the upper left corner of the left page, including a large circular symbol.

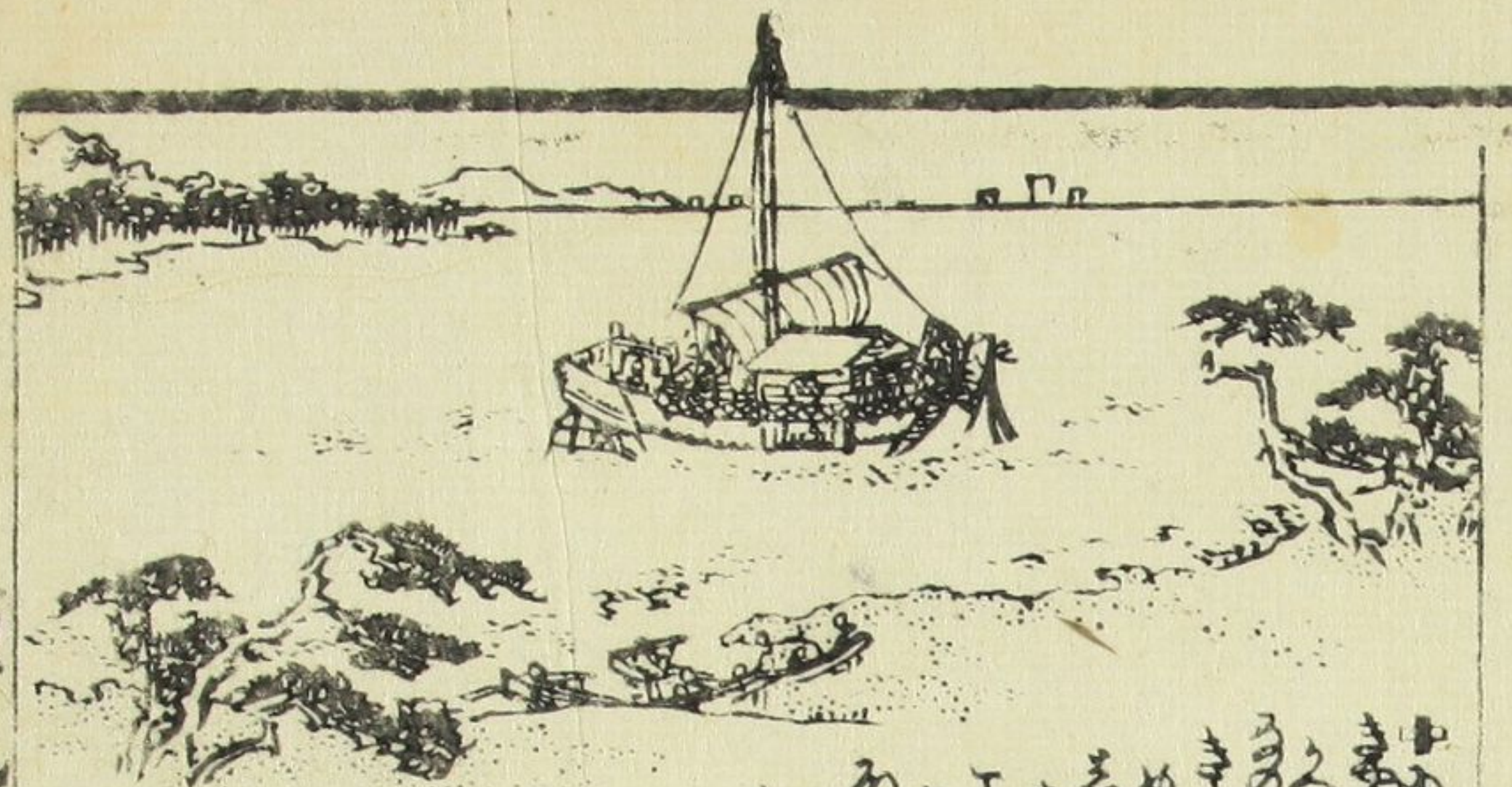


Handwritten text in the lower left corner of the left page.



Handwritten text in the lower right corner of the right page.

Vertical handwritten text on the right edge of the right page.



中野... 舟... 山...



あまの... 源氏... 十八編...



天保七年丙申春新彫

# 國貞画種彦作

種彦校合  
井筒屋の箱多子  
八百屋乃娘  
全六冊



歌川貞秀画

# 修紫田舎源氏

当奉十八編より廿二編まで開板おかしうすしめ笑吟を程奉希の

## 一筋道雪眺望 全四冊

歌川國芳画

## 世話家求 全四冊

歌川貞秀画

## 紫房紋笈箱

歌川貞秀画

## 糸柳花縁結 全四冊

歌川貞秀画

書物地本錦繪問丸通油町仙鶴堂鶴屋喜右衛門  
種彦校合  
井筒屋の箱多子  
八百屋乃娘  
全六冊  
昔齋三ちんちんく 三冊  
むら 話火 三冊  
茶茶あ のいろは 二冊

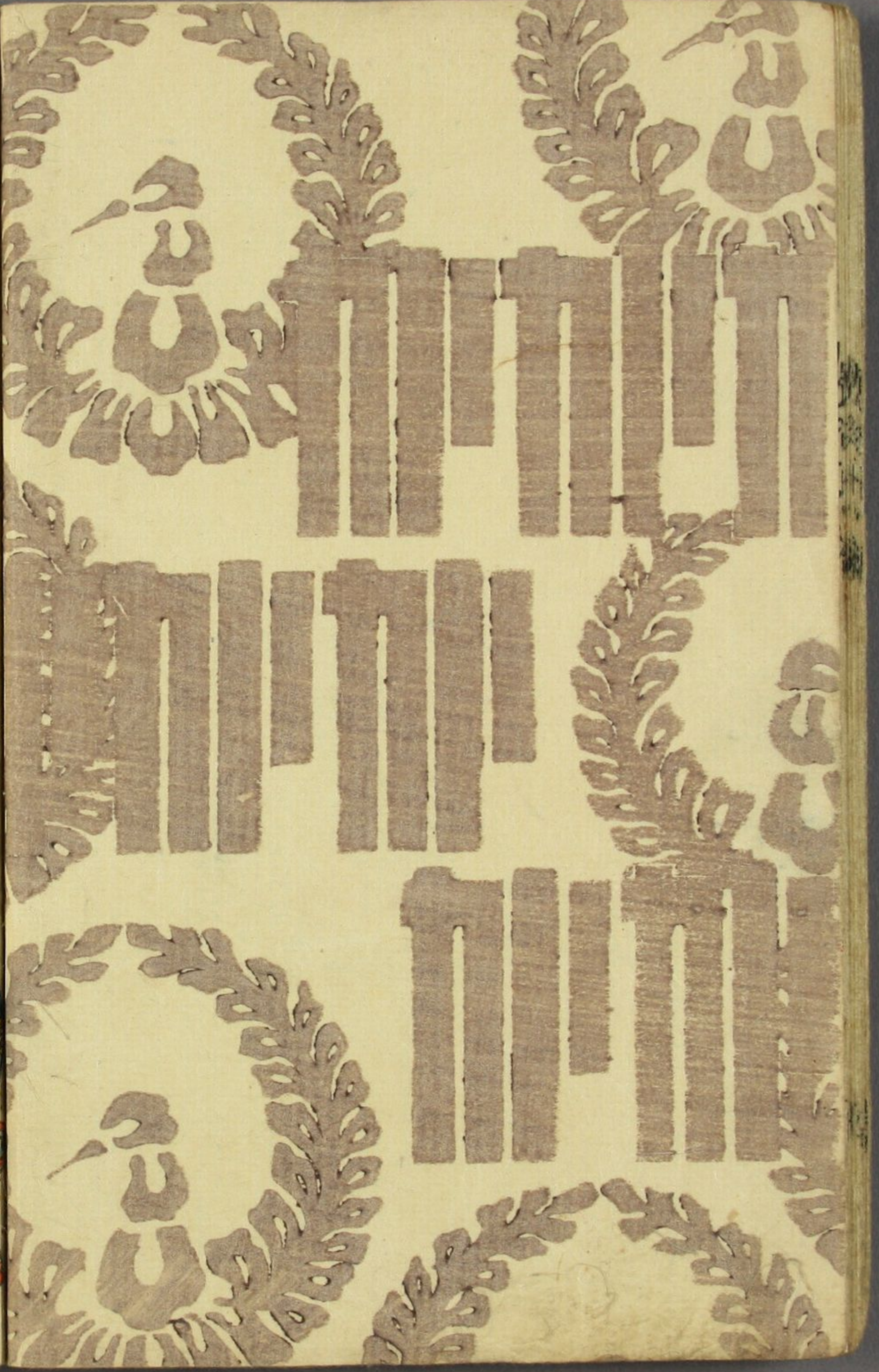
國貞画



源氏

白

十八卷下





原氏十八編





けりひのあつて  
 のちひさしくこれまで  
 まらりひでせんかん  
 きのうとまのりんと  
 おんあはれちのいせうちのいせう  
 おまねらちのいせうちのいせう  
 ちやとちやとちやとちやとちや  
 うまつきまひちやとちやとちや  
 人ぐとあひあはれちのいせうちのいせう  
 きのうとまのりんと  
 あつてこれとちやとちやとちやとちや  
 まらりひでせんかん

源氏十八編

ちやとちやとちやとちやとちや  
 まらりひでせんかん  
 きのうとまのりんと  
 おんあはれちのいせうちのいせう  
 おまねらちのいせうちのいせう  
 ちやとちやとちやとちやとちや  
 うまつきまひちやとちやとちや  
 人ぐとあひあはれちのいせうちのいせう  
 きのうとまのりんと  
 あつてこれとちやとちやとちやとちや  
 まらりひでせんかん



けりひのあつて  
 のちひさしくこれまで  
 まらりひでせんかん  
 きのうとまのりんと  
 おんあはれちのいせうちのいせう  
 おまねらちのいせうちのいせう  
 ちやとちやとちやとちやとちや  
 うまつきまひちやとちやとちや  
 人ぐとあひあはれちのいせうちのいせう  
 きのうとまのりんと  
 あつてこれとちやとちやとちやとちや  
 まらりひでせんかん

ちやとちやとちやとちやとちや  
 まらりひでせんかん  
 きのうとまのりんと  
 おんあはれちのいせうちのいせう  
 おまねらちのいせうちのいせう  
 ちやとちやとちやとちやとちや  
 うまつきまひちやとちやとちや  
 人ぐとあひあはれちのいせうちのいせう  
 きのうとまのりんと  
 あつてこれとちやとちやとちやとちや  
 まらりひでせんかん



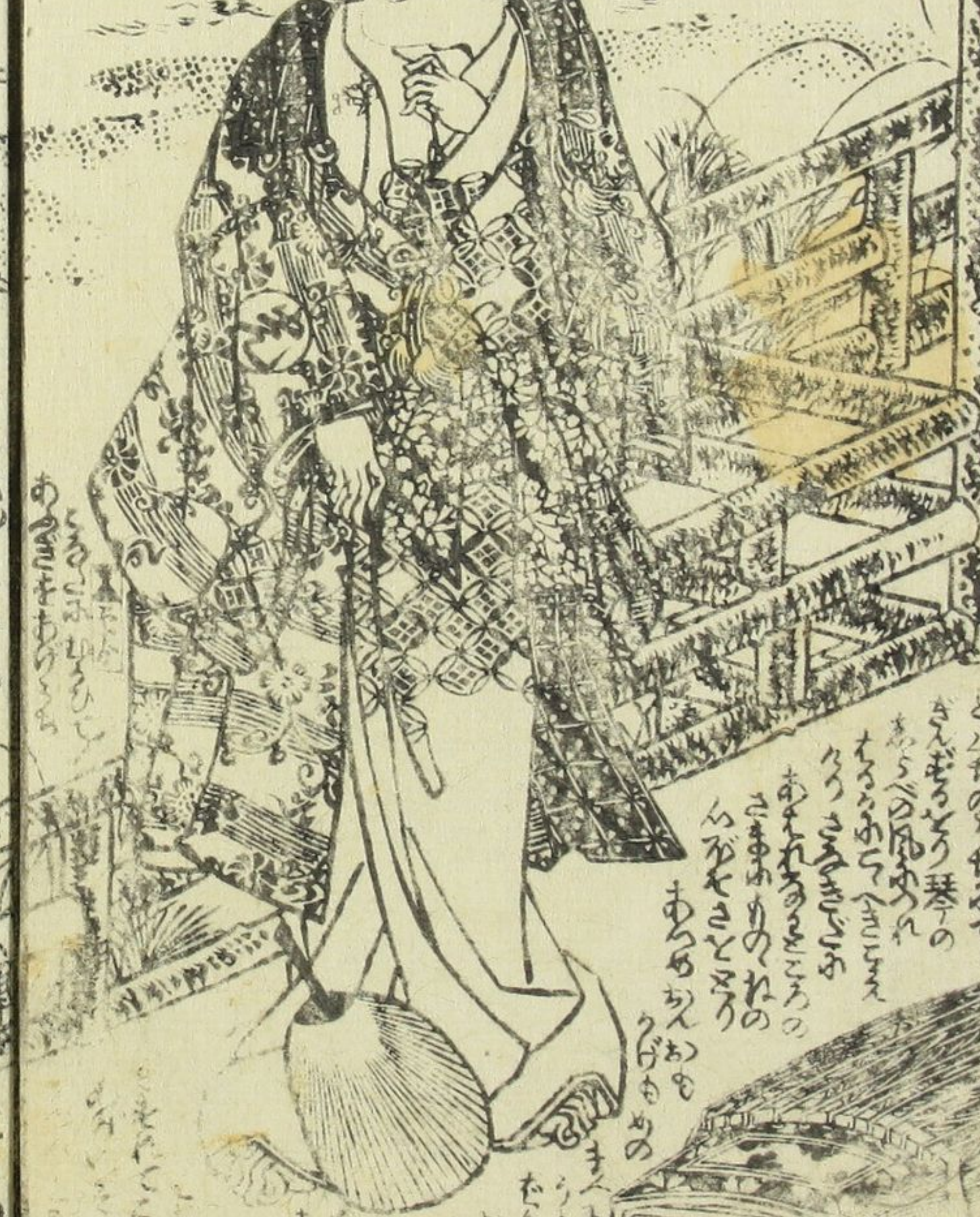


先づ  
らむま  
のり

五つ  
Super  
OR

月  
八月

さして  
いそ  
なま  
ひま  
つた  
つた



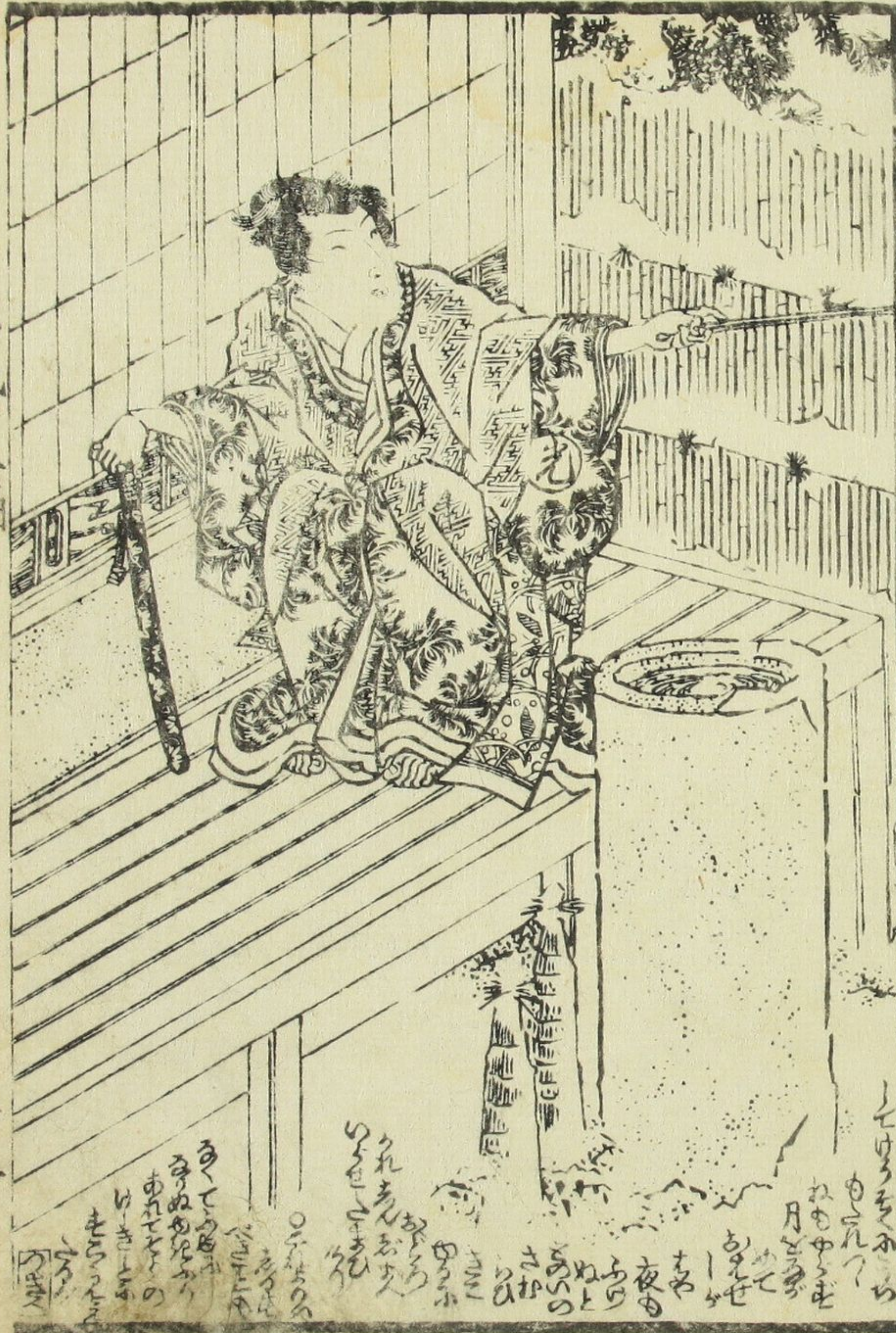
つた  
つた  
つた

あま  
らむ  
らむ  
らむ  
らむ  
らむ



あま  
らむ  
らむ  
らむ  
らむ  
らむ

あま  
らむ  
らむ  
らむ  
らむ  
らむ



東  
五  
一五



洲  
田  
一  
八  
終

源氏物語

十五

夕べの月がたつきつてあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたは



源氏物語

十五

上りては... 源氏物語の一場面を描写する...



下りては... 源氏物語の一場面を描写する...

源氏物語の一場面を描写する...



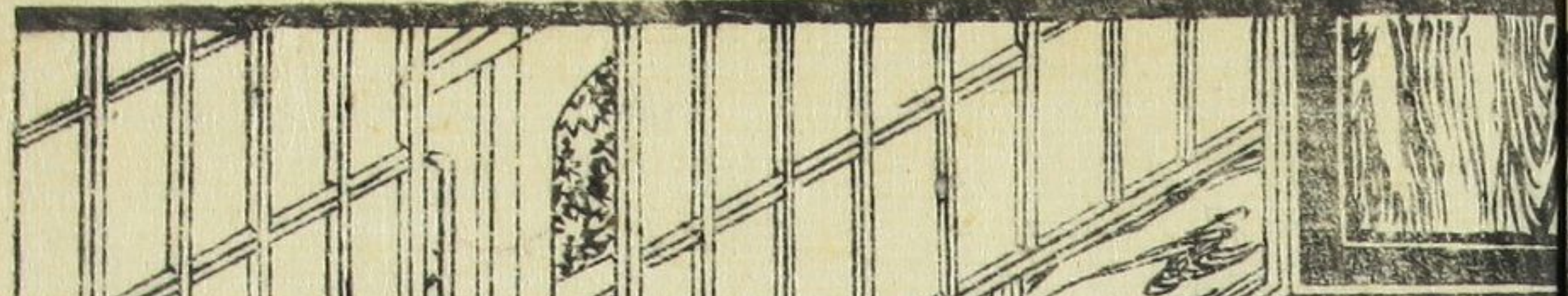
源氏物語の一場面を描写する...

この吉吉は... 吉吉の... 吉吉の...



吉吉の... 吉吉の... 吉吉の... 吉吉の...

吉吉の... 吉吉の...



吉吉の... 吉吉の... 吉吉の... 吉吉の...



吉吉の... 吉吉の...

さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし  
さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし  
さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし



さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし  
さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし

さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし  
さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし



さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし  
さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし

さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし  
さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし

さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし  
さきまのわたりはゆめさうり宗せん名ふ  
ひもをそそそるんちをのくらふべし



つぎりやそれかちり入るもこそ  
 してきてらんまると小むらさひ  
 ありたり

柳亭種彦作歌川國貞

浄書 千形道



○まよひのふみぬれぬ山あり  
 きよかへりきりし山あり  
 風まてひんせんいとのまうり  
 ありとをいひとまてあられの  
 人のあつた日せりと  
 ふていむまのまを  
 れいの琴と  
 浄書 千形道

天保七年申春新彫

山東京山作  
 琴声女房形氣全四冊

関亭傳実作  
 烏勘左衛門忠義傳全冊

五柳亭徳井作  
 森羅萬象の意氣全四冊

宝田千町作  
 稲葉山操の松枝全四冊

歌川國芳画  
 柳亭種彦作  
 浮波さりし 八冊

歌川國芳画  
 空車仙果譯  
 國字水滸傳十四編四冊

南信州町  
 三丁目西側  
 坂本氏製  
 黒油美香甲八羽  
 松屋石橋



書物錦繪  
 問屋鶴屋喜右衛門  
 江戸通油町



三

